

みみつ中央通信

帰宅しようと校門を左折して踏切を渡った。約二〇メートル先の角にお店がある。その前の歩道を自転車を押しながら歩いている一人の生徒が目に入った。生徒は、突然止まって自転車を左手で支えたまま、右手で何かを拾っていた。遠くからだった。何かを落としたりしたのだろうと思っただけで、それは違っていた。生徒の拾った物は、コンビニの白いビニール袋だった。そのビニール袋をお店の自動販売機の横においてあるゴミ箱に入れるかと思っただけで、生徒はそれを、自分の自転車の前かごに入れた。それを見ていた私は、車の窓を開けて生徒に

「偉いね」

と声をかけようと思ったが止めた。それは、その生徒が「偉いね」と言って欲しくてゴミを拾っているのでは無いと信じたからだ。そして、ゴミを拾うことが偉いのは無く、普通のことだと思っただけだ。

でも、きっと、その生徒に言わなくても、この通信を読めば、自分のことだと分かるだろう。私が誰かに、その生徒の話をすれば、きっと誰かの口からその生徒の耳に入るだろう。その時こそ生徒は、口には出さないが心で笑っていることだと思う。

朝の挨拶も同じことが言える。いつの頃からか、挨拶する子どもは偉いというようになつた。挨拶することは、偉いのは無く、日常生活に普通にあることだ。「おはようございます」の意味は太陽への感謝と「おめでとう」という意味で、「おめでとう」は、目(芽)が出る、つまり才能や活力がみなぎり、すべてに感謝する言葉だ

当たり前前のごときを、素晴らしく！

そうだ。『やまとしぐさお稽古』著：辻中公

私は毎朝、踏切近くの交差点に立ち、交通指導をしている。国道から学校に入る交差点には、交通指導員の方も立ち、子ども達の安全を守っていただいている。徒歩や自転車でも通学する生徒は、きちんと挨拶が出来て、気持ちも良くなり、笑顔にもなる。車で通学してくる生徒や保護者も殆どが、頭を下げて、挨拶をする。近くの会社に通勤される方でも、頭を下げたり、声を出したりして挨拶をしている。こんな大人の



校長 鈴木利明

背中を見て、子ども達は育っていくんだらうなと思っただけだ。

島根県にMランドという合宿型の自動車教習所がある。島根県という立地にありながら、年間六〇〇〇人も人がやってくる。そして、この自動車教習所で学び卒業して行った人の中には、自分の大切な人を連れて再びこの教習所にやってきて、こう言うそうさ。

「この教習所で自分の人生が変わった。

ここは、そういう所なんだ。」

と、涙を流しながら語る卒業生もいる。そして、この教習所を創った(故)小河二郎さんは、入口の看板にこう書いた。

「この国のルールは一つ それは『挨拶』 挨拶は自分を変える 世界が変わる」

この言葉は、Mランドを卒業した人達にはとにかく安全運転をしてほしいと考えて掲げられた。そこには、小河さんの安全運転への想いが秘められている。だから、安全運転で一番大切なものは、コミュニケーション能力だと言っている。つまり、周りの状況を、相手の立場に立って考えられるかどうかでことだそうさ。「あいさつがちゃんとできる人だったら、車の運転をしても、安全に周りの人を気遣って運転できるはずだ」と。

朝の登校時に、保護者の車に乗って子ども達が登校してくる。私が立っているのに保護者が気付かず、車の中で

「ほら、あいさつせんね。」

と声をかけをする保護者がいた。これも大人として、保護者として我が子に人間力を付ける大切な役割なのだと思う。「親の思うとおりに子どもはならない。親のとおりには子どもはならない」と言う。

本校のグラウンドの倉庫の壁には

「当たり前前のごときを素晴らしくやる！」と書かれている。挨拶をするのは、当たり前前なのだから、その当たり前前のごときを素晴らしくできるようにしてほしい。

「自分は日本一素晴らしい挨拶ができる自信がある」

と胸を張って言えるようになってほしい。たかが挨拶と思うかもしれないが、自分の挨拶で世界が変わるなら、本気になった挨拶力で世界を動かすことも出来るのだ。

ふるさと再発見事業

令和元年10月11日



日向の子ども達のために教育委員会が「ふるさと再発見事業」を行っています。今年も、3年生が東郷地区にある「東郷メディキット株式会社」「中島美術館」「若山牧水記念文学館」を見学しました。日向に住んでいながら、ふるさとのよさを知りません。知らなければ発信できません。それぞれに詳しい説明を聴き、工場を見学したり、芸術品を鑑賞したり、文学を学んだりと充実した一日になりました。子ども達も真剣にメモを取りながら、聴いていました。

第73回体育大会

令和元年10月27日



秋の晴天のもと、体育大会を行いました。子ども達の健康管理のことを考え、年度当初の予定と変更になりましたが、たくさんの御来賓、御家族の方に参加いただき、感謝しております。

今年の体育大会も子ども達の熱気や全力での競技、応援等、見ている方々が思わず拍手をしたくなるものばかりでした。結果は、接戦の末、赤団が優勝しましたが、どちらの団も100%以上の力が発揮し、見事な体育大会になりました。



生徒会の KIZUNA 委員会が中心となって、台風19号の被害に対し、支援金を体育大会で呼びかけ協力をお願いしました。たくさんの方のお陰で、各学級での支援金も合わせて、**74,023**円集まりました。

毎年のように日本各地で災害が起きています。今まで災害が無かったからではなく、今まで災害が無かったからこそ、いつも、真剣に考えなければなりません。たった一つの命です。常に、アンテナは張っておきましょう。

たくさんの支援金の御協力、ありがとうございました。